

おだわら森林ビジョンの策定に併せた プロジェクトの提案

プロジェクトについて

プロジェクトとは？

おだわら森林ビジョンの策定では、「おだわら森林ビジョン策定検討委員会」による室内での議論に併せ、目指すべき森林づくりや現場の課題解決に向け、具体的アクションも同時進行させていきたいと考えております。これを【プロジェクト】として実行します。

昨年度に実施した個別ヒアリングや市民アンケートの結果などを踏まえ、ビジョンの発展に特に重要であると判断した事項について、プロジェクトを提案させていただくこととしました。

プロジェクトのねらい

プロジェクトを実施することにより、森林の様々な課題を全員で共有する機会になるほか、日々の仕事では対応できない研究や新しい知見を得るなど、新しいコト・モノに対しての試金石として、皆様と実行できればと考えています。

なお、今回挙げるプロジェクトは提案の一つであり、他の皆様からの提案を妨げるものではないほか、実施にあたっては優先順位をつけ、必ず市内関係者と共同で実施するなど、地域の意向を第一に考え、実施します。

今回のプロジェクトの提案内容

○実施予定期間

令和2年7月3日～令和3年3月31日を想定

※試行期間において、プロジェクトの継続について検討します

5つのプロジェクト

1、おだわら森林データベース（仮称）の構築

2、多様な施業の実施に向けた森林経営管理権設定の検討

3、多様な林業機械を活用した森林整備の検討と竹林整備

4、馬を利用した森林管理と木育や木材産業との連携

1、おだわら森林データベース（仮称）の構築

概要

市の今後の森林の在り方を議論する上で、客観的な森林情報は必要不可欠なものです。近年、航空レーザや衛星などセンシング技術が発達し、非常に細かな森林の情報を取得することが可能になりました。これらの情報をとりまとめて、森林の様々な計画に活用し、最終的には【おだわら森林データベース】として広く運用することを提案します。



今まで樹木に覆われていた地形の細かな変化
(昔の作業路や崩壊地) が目で確認できるようになります。

同じ地域の航空写真と
レーザによる微地形表現図の比較

汎用タブレットへの森林データの格納
(森林情報の見える化)

2、多様な施業の実施に向けた森林経営管理権設定の検討

概要

本ビジョンが目的とする多様性に富んだ森林を創るためには、ある程度の森林面積を確保して、生態系の保全や活動の場を創ることが必要です。また、希少な植物や小田原市のシンボルとなるような景観なども保全も必要になります。

しかし、山林所有者の88%が5ha未満の零細な所有者であり、管理できない森林も多くあることから、林野庁の【新たな森林管理制度】を活用し、経営管理の委託などモデル的な取り組みを検討します。

フィールドを確保し、多様な森林施業やふれあいの場を創る

目的	事業の展開
多様な森林の造成(森林施業)	小規模皆伐からの広葉樹種の導入、天然林・溪畔林部分の保全
多様な森林の造成(試験)	針葉樹人工林の複層化、天然更新試験の実施
教育・研究	教育・研究の場の確保、森林のふれあいの場の創出
獣害対策	獣害防止柵の設置、効果的な捕獲検討の場、ハンターの育成
市のブランド向上	森林認証取得

3、多様な林業機械を活用した搬出技術の検討と竹林整備

概要

当地域の素材生産は機械化が進んでいますが、多様な森林整備は小型で高性能な機械も活用することにより、小規模な生産にも対応できる体制を検討します。

また、要望の多い荒廃竹林対策は、自走式地拵え機による破碎などを試験的に実施するほか獣害対策として耕作放棄地などへの利用も検討します。

多様な小型機械の活用



自走式地拵え機による竹林整備



4、馬を活用した木育を含めた教育活動や木材産業との連携

多様な森づくりの推進には、専門的な技術と機械の導入も必要ですが、一方で森林づくりの主役は市民であり、継続した広報戦略も重要です。また、市の大きなアドバンテージとして特に小学校を対象とした木育を重視しており、新しいコンテンツにより、その効果を更に引き出すことも可能となります。このため馬を活用した森林管理（馬搬（ばはん））の活用を提案します。

- ① 幅員が2m以下（歩道程度）でも木材の搬出が可能であり、土壌の流出や植生へのダメージが殆どありません（重機を必要としない）。また、下草などを食べるため、草刈りの低減なども期待できます。
- ② ホースセラピーという言葉のとおり、馬での移動や作業そのものはセラピー【therapy：薬や外科治療に頼らない物理療法や心理療法】としての歴史があり、作業を共にすることによる心理的効果や教育への効果が期待されています。**このことは木育を含め、教育に力を入れている市にとって大きな相乗効果が期待され、木材産業とのコラボレーションも可能です。**
- ③ **【馬を使った多様性に向けた森林管理】**というのは市のアピールポイントとしても極めて大きく**他の森林ビジョンを掲げる自治体との差別化を図り、多くの関係者が小田原市に注目するきっかけ**となります。また、従来の林業と比較し、市民活動としても興味を得やすいものと考えます。

馬による森づくり

